

平成29年度 NIE 実践報告

さつま町立柏原小学校

1 本年度の NIE 教育の目標

NIE 研究実践を始めて2年目となる本校では、昨年度の取り組みの成果と課題を生かし、本年度の目標を「自ら課題を見つけ、主体的に学習に取り組む子どもの育成をめざした新聞の効果的な活用」とした。

2 各学年の目標

低学年・・・ 新聞の写真や文字に興味をもち、新聞に親しむことができる。

中学年・・・ 新聞の記事を読み、自分の考えをもち、表現することができる。

高学年・・・ 新聞各社の同一記事を比べて読んだり、記事と自分の考えを比べたりして、意見文を書くことができる。

3 研究の実践内容

- (1) NIE 教育についての校内研修
- (2) 各教科・領域での取り扱い
- (3) NIE コーナーの設置
- (4) 情報・新聞委員会の新設
- (5) NIE タイムの実施
- (6) 「若い目」や「子供のうた」等新聞への各種作品投稿

4 研究の実際

- (1) NIE 教育についての校内研修

「自ら課題を見つけ、主体的に学習に取り組む子どもの育成」は本校の校内研修のテーマであり、その実現のための具体策の一つとして、新聞を活用した取り組みを行った。

まず、4月の研究テーマ・研修計画の作成において、全職員で今年度の取り組みについて共通理解を行った。その際、研究の視点の一つに NIE 教育を設定し、全校体制で取り組むことにした。特に、国語の授業を中心に思考力・判断力・表現力の育成の手段として新聞を活用した。2月には、テーマ研修の検証として、新聞を用いた5年生国語の研究授業を行う予定である。

また、年間2回職員研修の時間を NIE 教育に当てており、10月には南日本新聞社に「よむのび教室」を依頼して職員向けに講話をしていただいた。NIE 教育の目的や方向性など具体的な指導方法を教職員で学ぶことができた。

(2) 各教科・領域での取り扱い

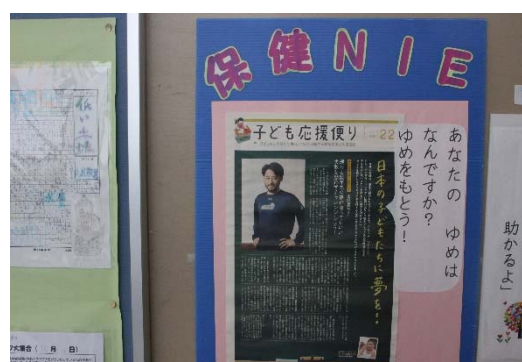
国語以外の教科の指導においても、新聞を活用したより効果的な指導法はないか検討し活用した。理科の学習では、5年生「流れる川のはたらき」6年生「大地の変化」などにおいて、災害を伝える記事を活用し防災教育を行った。また、5年生「天気の変化」では、気象情報を活用した調べ学習に新聞を用いた。社会においては、4年生「県を知ろう」で、県内の出来事や農水産業の記事を用いて学習した。また、5年生では、情報産業について学習し、新聞社の見学も行う。また、5・6年生では、学習した内容を新聞にまとめるといった活動も取り入れている。

また、今年度の「地震発生時の避難訓練」では、平成9年の鹿児島県北西部地震の写真を活用し、地震の恐ろしさを実感した。他にも保健室前には、養護教諭が保健NIEの設営を行っている。

学年によっては、朝の会で新聞をもとにスピーチをする活動を取り入れているところもあった。新聞を購読していない子も学校の新聞コーナーで気になるニュースを探ことができ、広く社会に目を向け、自分の考えをまとめる機会になった。



避難訓練（地震）



保健室前

(3) NIE コーナーの設置

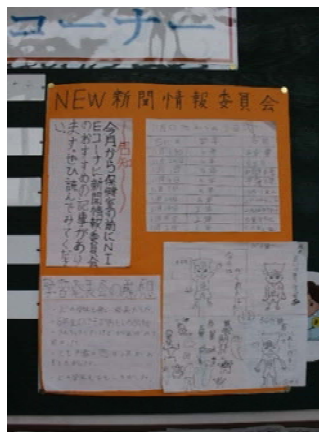
新たに、各種新聞を広げたまま自由に閲覧できるコーナーを設置し、児童が進んで読めるようにした。また、児童の作品を掲示するスペースを低学年、中学年、高学年毎に設けて、NIE学習の意欲を高め、学年相互のNIE学習の状況が分かるようにした。また、新聞コーナーの机を広いものに変え、新聞を広げて読みやすい形へ変え、場所も児童の目につきやすいところへ移動した。

(4) 情報・新聞委員会の新設

委員会活動の一つとして、情報・新聞委員会を新たに設置し、委員会の時間や常時活動を行っている。主な活動内容としては、新聞閲覧コーナーの新聞の設置や整理を常に行っている。また、委員会活動で校内新聞を作成し、NIEコーナーに提示している。



NIE コーナー



校内新聞



新聞閲覧コーナー



児童作品コーナー

(5) NIE タイムの実施

毎月1回、朝活動の時間に「NIE タイム」を設定し、新聞を活用した活動を行った。内容については、それぞれの学年の実態に合わせて、担任と話し合いながら決めるようにした。できあがった作品のいくつかは、NIE コーナーに掲示して、他の学年ではどのような活動をしているのか紹介し合うことで児童の意欲の向上を図った。

ア 2年生実践例「新聞写真アルバム」

新聞にある気に入った写真を選び、切り取って貼る活動。自分の好きな写真を切り取り、スクラップして簡単な感想を書く活動。児童は楽しそうに取り組む様子もあつた。



新聞写真アルバム

イ 3年生実践例「気になるニュース」南日本新聞社のホームページからダウンロードしたワークシートで、一日の新聞の中から「気になるニュース」を見つけて友達に紹介する活動。その人が何をしたのか簡潔にまとめる活動を通して、読む力、書く力の向上にもつながった。

ウ 5年生実践例「5W1Hを調べよう」

南日本新聞社のホームページからダウンロードしたワークシートで、記事の内容を読み取る活動。新聞記事の書き方をもとに日頃の「書く」活動の参考になったようである。



5W1Hを探そう



学習の様子

(6) 「若い目」や「子供のうた」等の各種新聞への作品投稿

南日本新聞「若い目」や「子供のうた」等への作品投稿を積極的に呼び掛け、児童が日記や作文の表現のしかた等を考える機会となった。掲載された児童の作品を校内掲示して、児童の意欲化を図った。また、地区「よむのびコンクール」へ3～6年全児童が応募し、家庭でもNIE教育に取り組んだ。

5 研究の成果と課題

成果

- (1) 実践研究2年目となり、前年の反省をもとに全職員で共通理解、共通実践しながら進めることができた。特に、NIEタイムの充実や「教材としての新聞活用」を意識した授業実践が成果として感じられた。
- (2) 情報・新聞委員会の設置により、児童が新聞をより身近に感じられるようになった。

課題

- (1) 教育課程への位置付けを明確にし、さらに効果的な活用法を探りたい。
- (2) 思考力・判断力・表現力を育むための手段として、新聞をいかに活用法できるかについて授業を通して検証していきたい。
- (3) 家庭と連携したNIE活動の充実をさらに図っていきたい。